

文系 地理B (第3学年58回生) 授業プリント ( ) 等用語一覧

ヨーロッパの工業									
33	精密機械産業	34	空気	35	水	36	繊維	37	自動車
38	造船	39	バノーニ計画	40	タラント	41	製鉄所		
42	アウトスターダ <sup>g</sup> デルツール			43	第三のイタリア	44	ガラス	45	水の都
46	皮革	47	中小企業	48	ハイテク産業				
<b>Work 07</b>									
石炭 原料 自動車 3 自動車									
<b>Work 08</b>									
製紙パルプ 情報通信 シリコンバレー									
<b>Work 10</b>									
①機械類など多くの国に共通している品目									
②原油・天然ガス									
<b>Work 11</b>									
①・アイスランド→魚介類 ・ノルウェー→原油									
②・ノルウェー→原油・天然ガスのオイルマネー									
③ノルウェー									
④EU：ヨーロッパ連合									
<b>Work 12</b> ⑥									
ウ：原料と燃料の占める割合が大きいことから、原油・天然ガスが豊富なノルウェーと判断。									
ア：ウ（ノルウェー）と隣接しておらず、貿易関係において上位3位に入っていないことからフィンランドと判断。									
イ：ウ（ノルウェー）と隣接しており、貿易関係において上位1位になっていることからスウェーデンと判断。									
<b>Work 13</b> ②									
①ドナウ川ではなくライン川。									
③「ヨーロッパのシリコンバレー」ではなく、「ヨーロッパのサンベルト」。※授業では取り扱っていない。									
④伝統技術・と先端技術の結合により、繊維や皮革製品の生産が伸びているのは「第三のイタリア」と呼ばれる地域。									
<b>Work 14</b> ⑤									
ノルウェーは水主火従の国家。フィンランドは3国の中では火力に依存している。									
<b>Work 15</b> ツ									
他国に対する輸出額が最も大きい「チ」がドイツ。そのドイツと最も関わりが大きい「タ」がフランス。「ツ」と「テ」を比較して、フランスと関わりが大きいのが隣国のスペインであり、「ツ」がスペイン。「テ」がポルトガル。輸出額の大きさを工業の発達度合いとしてとらえることと、隣接しているかないかが解答のポイントとなる。									

ヨーロッパの工業	
Work 20	
国名	特徴
ドイツ	ルール炭田の石炭をもとにした原料指向型の鉄鋼業が、エッセン、ドルトムントで発達したが、近年は斜陽化にともないハイテク産業が集積しつつある。自動車やビール産業は世界的に有名である。第二次世界大戦後、労働者不足解消のために、多くの外国人労働者を受け入れ、労働者はガストアルバイターといい、トルコ出身者が多い。
フランス	石炭と鉄鉱石をもとにした原料指向型の鉄鋼業は、資源の枯渇などから臨海指向型へとシフトしていった。トゥールーズではEUの利点を活かした航空機産業が発達している。伝統産業としてボルドーのワイン産業、リヨンやリールの繊維産業がある。
イギリス	ランカシャー地方のマンチェスターが産業革命発祥の地である。山脈の風上側のリーズとともに、気候との関わりが大きい。北海油田開発後は、臨海指向型の石油化学工業、造船所跡地を活用した先端技術産業（シリコングレン）が発達している。
ベルギー	かつては石炭をもとにした原料指向型の鉄鋼業が発達していた。アントウェルペンではダイヤモンドの研磨産業が発達している。
スウェーデン	自国の鉄鉱石をもとにした自動車産業や造船業が発達している。
スペイン	ドリードやバルセロナでは自動車産業が発達しており、ドイツに次いでヨーロッパ第2位の生産量をあげている。
スイス	高度な技術ときれいな空気・水を背景に精密機械工業が発達している。
イタリア	ミラノでは繊維工業、トリノでは自動車工業、ジェノバでは造船業が発達している。ヴェネツィアのガラス、フィレンツェの皮革といった伝統産業が発達している地域を第三のイタリアという。
フィンランド	ハイテク産業が発達しており、オウル市はフィンランドのシリコンバレーと称されている。
ノルウェー	北海油田・ガス田により、原油・天然ガスの輸出国となっている。